

地域安全学会論文集(研究発表会論文)の執筆要領と和文原稿作成例

Guideline for Manuscript and Japanese Paper Sample of the Journal of Social Safety Science

(査読用原稿では点線で囲まれた枠内には記入しないこと。図形の貼付も不可。
修正原稿では必ず正しく記入すること。)

地域 太郎¹, 安全 花子²

Taro CHIIKI¹ and Hanako ANZEN²

¹ 地域安全大学 情報工学科

Department of Information Technology, Chiiki Anzen University

² 防災科学コンサルタント(株) 防災技術部

Department of Disaster Mitigation Engineering, Bousai Kagaku Consultants Co., Ltd.

The present file has been made as a print sample for the Journal of ISSS. The text of this file describes, in the camera-ready manuscript style, instructions for preparing manuscripts, thus allowing you to prepare your own manuscript just by replacing paragraphs of the present file with your own, by CUT & PASTE manipulations. Both left and right margins for your Abstract should be set 1 cm wider than those for the text of the article. The font used in the abstract is Times New Roman, 9pt, or equivalent. The length of the abstract should be within 7 lines.

Keywords: *three to six words, one blank line below abstract, indent if key words exceed one line, Times New Roman, italic, 9 point font*

1. はじめに

この「地域安全学会論文集の執筆要領と和文原稿作成例」は、参考文献¹⁾を参考に、「地域安全学会論文集(研究発表会論文)」の原稿作成の指針を示したものです。

この電子ファイル(Word 2003)は、地域安全学会論文集の原稿(和文)を作成するために必要なレイアウトやフォントに関する基本的な情報を記述したテンプレートです。原稿そのものの体裁(A4)をとっているため、このファイルの中の文章をこれから書こうとしている実際のものに置き換えれば、所定のフォントや配置の原稿を容易に作成することができます。原稿作成にあたっては、必ずこのテンプレートを使用してください。フォーマットの細部が変更される場合がありますので、過去に投稿した原稿を再利用することはお控えください。フォーマットが守られていない原稿については、学術委員会により返却される場合があります。

2. 用紙と基本構成

原稿は、A4判で、次の順に作成して下さい。

- ・ 題目(和文および英文)
- ・ アブストラクト(英文)
- ・ キーワード(英文)
- ・ 本文(和文または英文)
- ・ 補注(必要な場合)

・ 参考文献

審査の公正を高めるために査読者には著者名を伏せて査読原稿を送付しますので、上記の点線で囲まれた著者名(和文および英文)および所属名(和文および英文)の部分は記入しないでください。上から図形を貼付して伏せることも不可です。謝辞も同様に空欄にしてください。また、参考文献として論文中に引用する場合は、「著者らは」など末尾の参考文献と関連して著者名がわかるような記述は避けてください。

平成17年度から、電子申込・電子投稿となりましたので、期間内に地域安全学会ホームページ(<http://www.issss.info>)から、論文申込(講演申込を兼ねる)と論文原稿を同時に投稿して下さい。

3. 論文送付票

地域安全学会ホームページの査読論文申し込み画面で、

- ・ 題目(和文および英文)
- ・ 筆頭著者氏名(和文および英文)、所属(和文および英文)、および連絡先(郵便番号、住所、e-mailアドレス、電話番号、ファックス番号)
- ・ 連名著者全ての氏名・所属(和文および英文)
- ・ 原稿枚数、図・表・写真の枚数を入力し、送信して下さい。同時に、PDF形式とした査読論文を送

信して下さい。

4. レイアウト等

レイアウトは、本要領に従って下さい。ただし、使用するソフトウェアやプリンターの違いによって、文字の大きさや字体、レイアウトの寸法などに若干の差異が生じて構いません。しかし、1 ページ当りの字数に大幅な増減がある場合には、レイアウトの修正をお願いすることがあります。

(1) マージン等

- ・ 上下：各 20mm，左右：各 20mm
(ただし、1 ページ目のみ上：30mm)
- ・ 二段組み本文の段組間隔は 8mm

(2) フォント等

フォントは、原則として、以下の通りとします。

- ・ 題目：和文はゴシック 14pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン。
英文は Times New Roman 12pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン。
- ・ 著者名：和文は明朝 12pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン。
英文は Times New Roman 12pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン。
- ・ 著者所属：和文は明朝 9pt，左揃え 30mm のマージン。
英文は Times New Roman 9pt，左揃え 30mm のマージン。
- ・ アブストラクト：英文 Times New Roman 9pt，左揃え，左右各 30mm のマージン。
- ・ キーワード：Times New Roman, italic, 9pt, 3-6 語，
2 行以内，左右各 30mm のマージン。
“**Keywords**” は一語でボールドイタリック体。
- ・ 本文：明朝 9pt，行替えの場合は 1 字下げ。
- 章の見出し：ゴシック 10pt，左寄せ
- 節，項の見出し：ゴシック 9pt，左寄せ
- 図，表，写真のキャプション：ゴシック 9pt，
中央揃え
- ・ 補注，参考文献の指示：明朝 9pt の右肩上付き 1/4 角を原則としますが，各学問分野の慣例に従っても構いません。
- ・ 補注(必要な場合)：“補注”はゴシック 10pt，左寄せ，補注自体は，明朝 8pt。
- ・ 参考文献：“参考文献”はゴシック 10pt，左寄せ。
参考文献自体は，明朝 8pt。

(3) 行数および字数

a) アブストラクト

7 行以内として下さい。

b) 本文

二段組みとし，一段当りの幅は 81mm，1 行当り 25 字，行間隔は 4.0mm とし，1 ページ当り 60 行を標準として下さい。したがって，文章のみのページでは 1 ページ当り 3,000 字が標準的な字数となります。

(4) 総ページ数

題目から参考文献までを含めて，最低 6 ページ，最大

10 ページとして下さい。なお，査読者による指摘事項を踏まえて加筆・修正することを念頭に置き，最終原稿が 10 ページを超えないように査読用原稿を執筆することをお勧めします。

参考文献リストのあとに 1 行空けて，電子申込・投稿した日を投稿受付年月日として，右詰めで書いて下さい。登載が決定した場合には，最終原稿に登載が決定した日付を登載決定年月日として，投稿受付年月日の下に記載してください。

5. 文章および章，節，項

(1) 文章の書き方

文章は口語体によって，とくにカタカナ書きや英文を必要とする部分以外は，漢字まじり平仮名書きとして下さい。私的な表現，広告・宣伝，特定の個人・組織を誹謗する表現は避けて下さい。

(2) 章，節，項のタイトルの書き方

章，節，項の見出し記号と前後の行空け等は，以下の通りとして下さい。

- ・ 章：“1 … 9.”，前 2 行空き，後ろ 1 行空き。
- ・ 節：“(1) … (9)” ，前 1 行空き，後ろ行空き無し。
- ・ 項：“a) …… z)”，前後行空き無し。

6. 式，記号および単位系

(1) 記号等の使い方

式や図に使う文字，記号，単位記号等はできる限り常識的な記号等を用い，必要に応じて記号等の一覧を付けて下さい。

(2) 数式

数式は，式の展開や誘導部分を少なくしてできるだけ簡潔にまとめ，必要に応じて本文中で説明して下さい。また，数式には，式の番号を “[1] …… [9]” とし，右寄せで付けて下さい。

(3) 単位系

単位は，原則として国際単位系：SI⁽¹⁾を用いて下さい。

7. 図，表，写真

(1) 図，表，写真の体裁

CD-ROM 版論文集には，電子投稿された PDF ファイルが収録されますので，カラー版に関する制限はありません。電子出版の利点を活かしてカラー版を使用して下さい。ただし，冊子体論文集は白黒印刷となりますので，白黒印刷の完全版下原稿を別途作成していただきます。

(2) 図，表，写真中の文字，キャプション等

図，表，写真は，最後にまとめて配置するのではなく，関連のある文章の近くに配置して下さい。

図，表，写真中文字やキャプション等は，本文と同じ言語を用いて下さい。

図，表，写真には，それぞれ一連番号を付けて下さい。

表のキャプションは上に、図および写真のキャプションは下に付けて下さい。

(3) 図、表、写真と文章との関係

図、表、写真をページの一番上または一番下に配置する場合以外、上下 1 行ずつ空けて下さい。図、表、写真は一段のみ、二段抜きのいずれでも構いませんが、図、表、写真の左右には本文を組み込まないで下さい。

図、表、写真は、本文と同じ方向で組み込むことを原則とします。ただし、1 ページ全体を 1 つの図、表、写真とする場合は、本文の方向から 90° 回転することができます。

(4) 図、表、写真の引用について

図、表、写真を他の著作物から引用する場合には、出典を必ず明記し、著作権法に抵触しないよう、著者の責任において原著者等の了解を得て下さい。

8. 補注について

本文中の脚注や注はできるだけ避け、本文中で説明するか補注として本文末尾において下さい。ただし、それぞれの学問分野の慣例に従っても構いません。

補注とする場合は、順番に“(1) …… (9)”の番号を付け、明朝 9pt の上付きで示して下さい。

9. 参考文献について

参考もしくは引用した文献は、順番に“(1) …… (9)”の番号を付け、本文中では明朝 9pt の上付きで引用して下さい。末尾の“参考文献”の記述内容は、全ての著者、論文名、雑誌名または書名、巻号、ページ、発行所、発行年の順に記載して下さい。著者が 3 名以上の場合に限り、第 1 著者のみを記載しあとを“他”または“et al.”としても構いません。

原稿受付の段階で登載が決定していない論文は引用できません。公表されていない論文については、査読に際して提出いただく場合もあります。

10. 著作権と著者の責任

「地域安全学会論文集」に登載された個々の著作物の著作権は著者に属し、原稿の内容については著者が責任を持つこととなります。したがって、印刷後発見された誤植や内容の変更はできません。誤植の訂正や内容の変更が必要な場合は、学術委員会の了承を得た上で、著者の責任において、文書で、当該論文が登載されている「地域安全学会論文集」所有者に周知して下さい。

11. 修正原稿および印刷用最終原稿の提出

学術委員会による一次審査を通過した論文については、「修正原稿」および「修正事項に対する回答書」を提出していただきます。

修正原稿では、修正箇所を必ず赤字で示し、どのよう

に修正がなされたのか、わかるようにしてください。修正が適切でない原稿は、学術委員会により返却される場合があります。指摘事項以外の修正は認められません（誤字脱字の修正などの軽微なものを除く）。無断に加筆修正が行われた原稿は、学術委員会により返却される場合があります。

修正原稿では、上記の点線で囲まれた所定の部分に著者名（和文および英文）および所属名（和文および英文）を追記し、点線の枠は削除してください。また、隠匿したや謝辞等がある場合についても、必ず追記してください。

学術委員会による二次審査を通過した論文については、「印刷用最終原稿」を提出していただきます。その際に、軽微な修正を指示することがあります。

また、本年度より新たに、別途、審査付の論文集（電子ジャーナル）を発行することとなりました。これに伴い、第二次審査において採用とならなかった論文のうち、一部の修正により採用となる可能性がある」と認められるものは、著者が希望すれば、再度修正・審査を行い、審査の結果、採用となれば地域安全学会論文集（電子ジャーナル）（平成 22 年 3 月発行予定）に掲載します。この場合、修正は 1 回のみとし、執筆要領は本査読論文の執筆要領に準拠します。

12. その他

(1) 原稿受付年月日

学術委員会により原稿が受理された日付を原稿受付年月日とします。日付については、印刷用最終原稿の作成依頼時にお知らせします。

(2) 登載決定年月日

登載が決定した日付を登載決定年月日とします。日付については、印刷用最終原稿の作成依頼時にお知らせします。

(3) 登載決定

査読を経た原稿が、本「査読論文執筆要領」に合致していると学術委員会が認めた時点で、登載決定を事務局より通知します。

(4) 査読者等の公表

個々の論文についての査読者名および査読内容は公表しません。論文集には、当該年度の査読者の一覧を掲載します。

(5) 英文論文への適用

本文を英文とする論文の執筆要領は、本文が和文であることを前提として作成した本「査読論文執筆要領」に準拠して下さい。しかし、英文の場合は、和文のタイトル、著者名、所属は不要です。

本文のフォントは、Times New Roman 9pt を基本として使用して下さい。

補注

(1) 国際単位系

SI は、1960 年の国際度量衡総会で採択され、メートル法の単

位をもとに、現代の科学技術および一般の社会活動の諸分野で共通に使用できるよう編成された実用的な単位系で、以下のような長さ、質量、時間、電流、温度、物質、光度の基本単位があります。

長さ：メートル(m)	質量：キログラム(kg)
物質：モル(mol)	時間：秒(s)
光度：カンデラ(cd)	電流：アンペア(A)

また、10の整数乗の単位を作るために以下のようなSI接頭語が定められています。

10^{24} ：ヨタ(Y)	10^3 ：キロ(k)	10^{-9} ：ナノ(n)
10^{21} ：ゼタ(Z)	10^2 ：ヘクト(h)	10^{-12} ：ピコ(p)
10^{18} ：エクサ(E)	10^1 ：デカ(da)	10^{-15} ：フェムト(f)
10^{15} ：ペタ(P)	10^{-1} ：デシ(d)	10^{-18} ：アト(a)
10^{12} ：テラ(T)	10^{-2} ：センチ(c)	10^{-21} ：zepto(z)

10^9 ：ギガ(G)	10^{-3} ：ミリ(m)	10^{-24} ：ヨクト(y)
10^6 ：メガ(M)	10^{-6} ：マイクロ(μ)	

参考文献

- 1) 土木学会論文編集委員会：土木学会論文集投稿の手引, 論文集編集委員会関連資料, 土木学会, pp.8-22, 1998.
- 2) Kanamori, H., Aki, K. and Heaton, T.: Real-time seismology and earthquake hazard mitigation, Nature, Vol. 390, pp. 461-464, 1997.

(原稿受付 2009.MM.DD)

(登載決定 2009.MM.DD)